

# プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2011年4月30日】

団体名 CILくにたち援助為センター

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現が「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. プロジェクト名

ヘルパーフォローアップ講座(ともに生きるを感じよう連続講座)の開催

## 2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

しょうがいを持ち、地域で生活する当事者が増える一方で、その生活を支えるヘルパーの不足が深刻です。ヘルパーの資格を取っても他の仕事についてしまう人、ヘルパーとして働き始めても短期間でやめていく人が多いのが現状です。

その背景には待遇の問題なども大きくあり、その解決も重要ですが、一方で、しょうがいを持つ人の生活を支えていくヘルパーという仕事の大切さを実感してもらうことで、ヘルパーとして長く働き、よい関わりを継続してもらうことにつながると考えています。

参加者が、しょうがいを持つ人と共に生きる意義を実感し、しょうがいを持つ人の生活を支えることの大切さを認識できる講座を開催し、その結果として、ヘルパーの確保・育成につなげていきたいと思えます。

## 3. プロジェクトの内容 300文字まで

毎回の講師として、しょうがいを持つ当事者を招き、しょうがいをもって生きる事のリアルな生活をお話し頂きました。

- ① 重度肢体障害を持ち、人工呼吸器とともに自立生活を楽しむ
- ② 肢体不自由、重い言語しょうがいを持つ人のユニークなコミュニケーション
- ③ 途中で失明、しょうがいを受け容れていくこと、盲導犬との生活

それぞれのしょうがいを持つ当事者を講師に招き、話しを聞くのみではなく、受講者が「しょうがい」を体験できるプログラム、参加できるプログラムを何かひとつ組み入れて行いました。

## 4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

この講座では、前半で、講師の方々から自らの「しょうがい」と、どのように向き合い、周囲とのかかわりの中でしょうがいと共に生きることを会得してきたのか、その過程で感じてきたことを率直にお話し頂きました。引き続き、後半では、当事者の思いをより深く実感してもらうことを目的として、模擬体験を行いました(身体を動かさず声も出せない中で食事介助をされる・する体験、50音を読み上げて合図する方法でのコミュニケーションの体験、目が見えない人の日常の体験として介助者役の人に言葉で絵を説明してもらい想像してみる、手の感覚だけでお金を数える)。

講座全体を通して、しょうがいをもつ人たちの思いに共感し、ヘルパーという仕事がいかに大切であるかを、実感してもらうことができたと思えます。

## 5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

昨年度に引き続き、今年度も、地域の派遣事業所のヘルパーや、興味を持った市民、民生委員の方など、多くの方の参加を頂きました。講師の方々のお話と模擬体験を通して、しょうがいを持つ人が地域の中でどのような思いで暮らしているのか、また、しょうがいを持つ人の地域生活における、ヘルパーという存在の重要性を受講者に伝えることができたと思えます。

「しょうがいを持つ人との接し方」という切り口の講座は他所でもありますが、当事者の講師の方々から率直な語りを通して、しょうがいをもつ人もたない人が「共に生きる」社会について考え、それを支えることの意義が実感できる当講座は、大変有意義なものだと感じます。今後も継続し、息の長い取り組みとしていきたいと考えています。

## 6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし

## ヘルパーフォローアップ講座（ともに生きるを感じよう連続講座）講座写真

第1回 8月2日（月） 講師：小田政則さん



☆手足が動かず声もでない状態で、意思を相手になんとか伝え、好みあられを自分の希望の食べ方で口に運んでもらう体験をしました。

